

資料3

地下水汚染の状況及び令和7年度のスケジュール

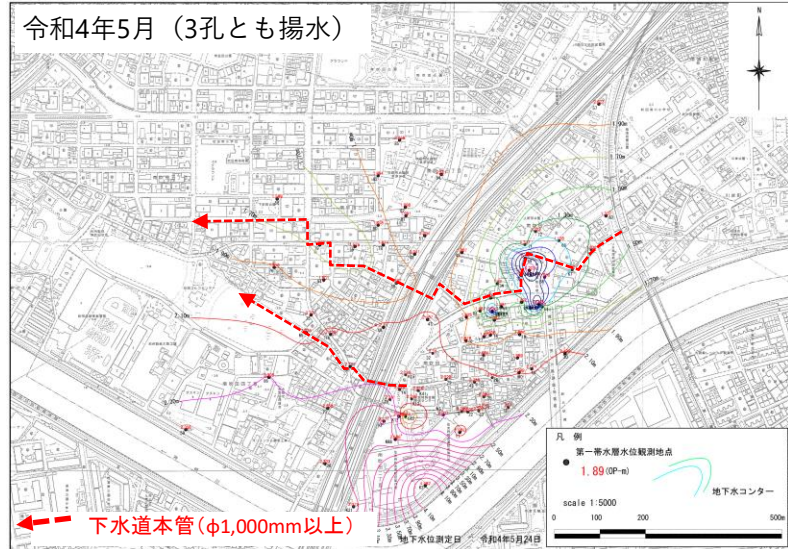
地下水位コンター図（第1帯水層）（1）

- JRおおさか東線「南吹田駅」の南側に1、2号揚水井戸、北側に3号揚水井戸
- 揚水量最適化試験実施のため、3号揚水井戸は令和6年4月1日から揚水停止

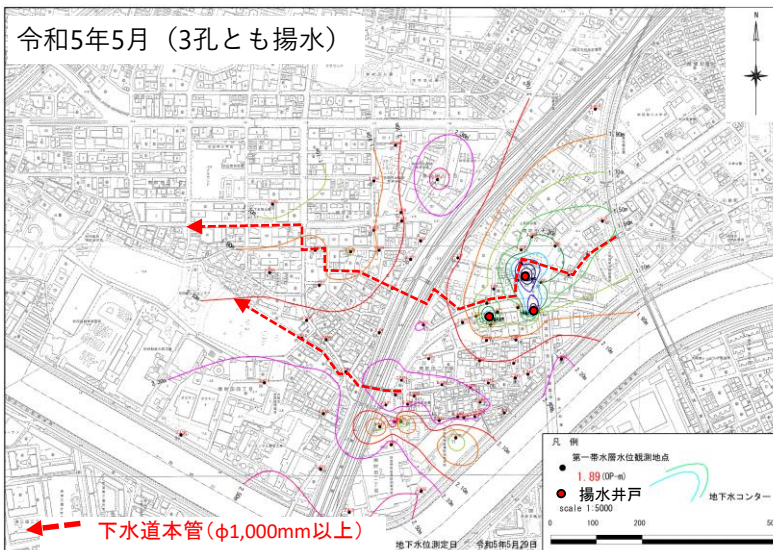
令和3年5月（3孔とも揚水）



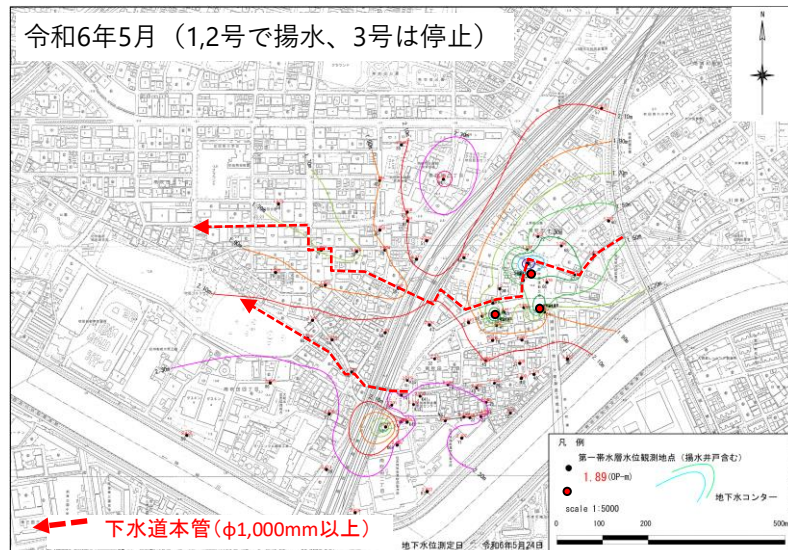
令和4年5月（3孔とも揚水）



令和5年5月（3孔とも揚水）



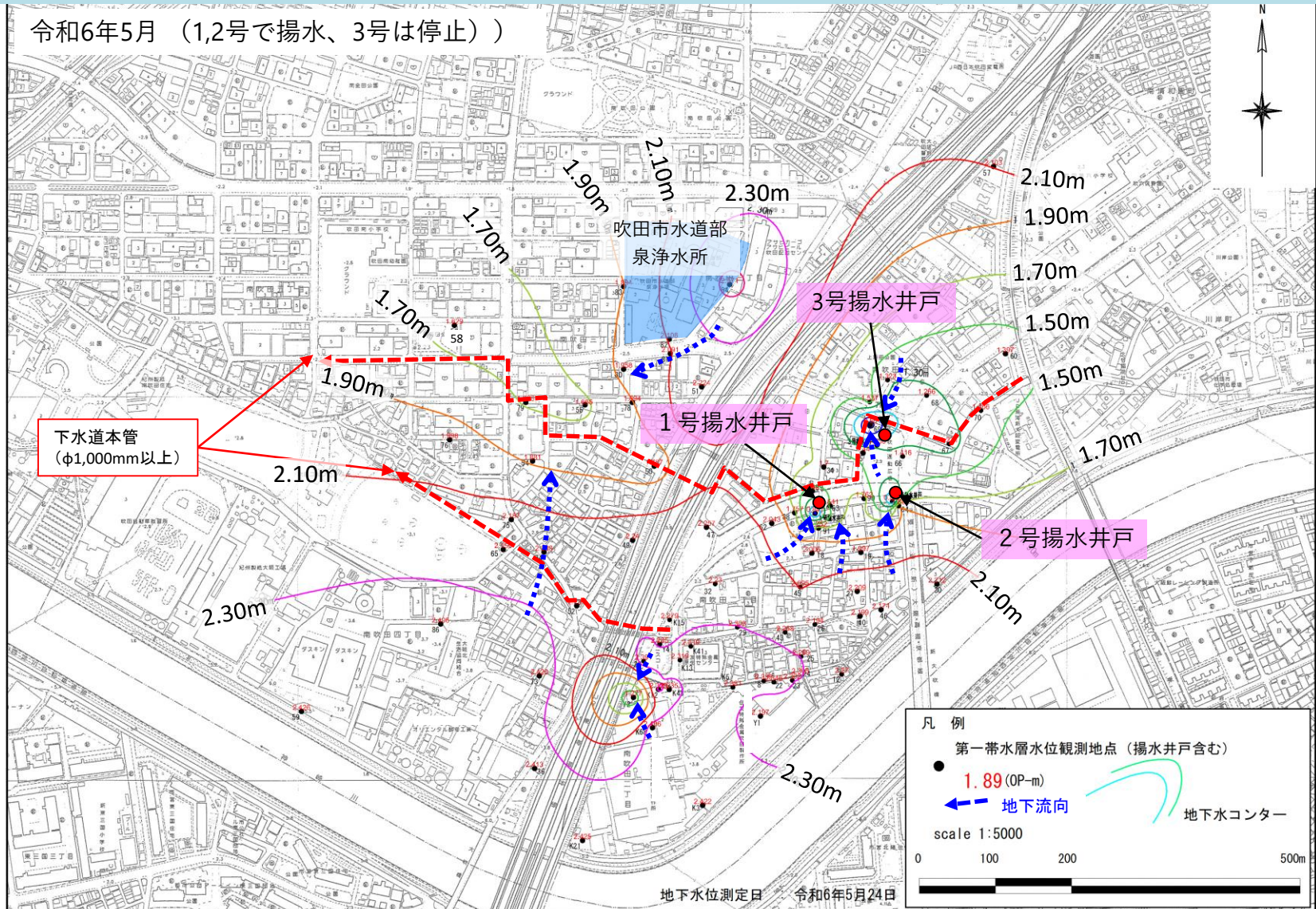
令和6年5月（1,2号で揚水、3号は停止）



地下水位コンター図（第1帯水層）（2）

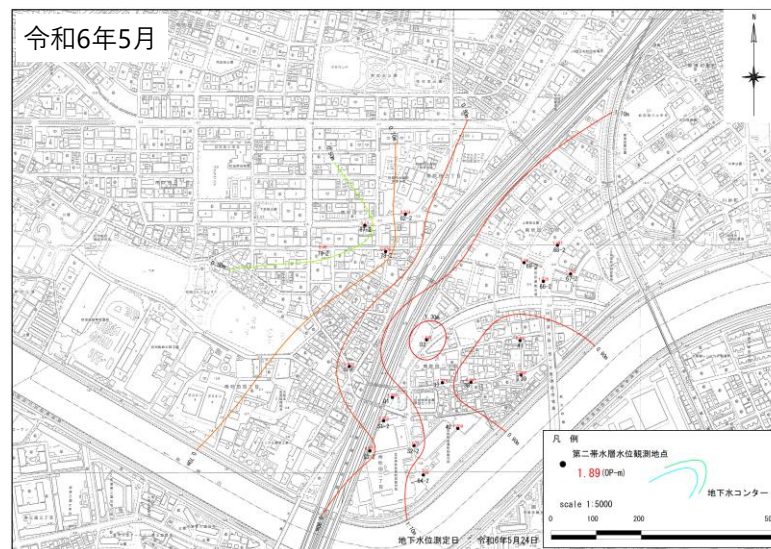
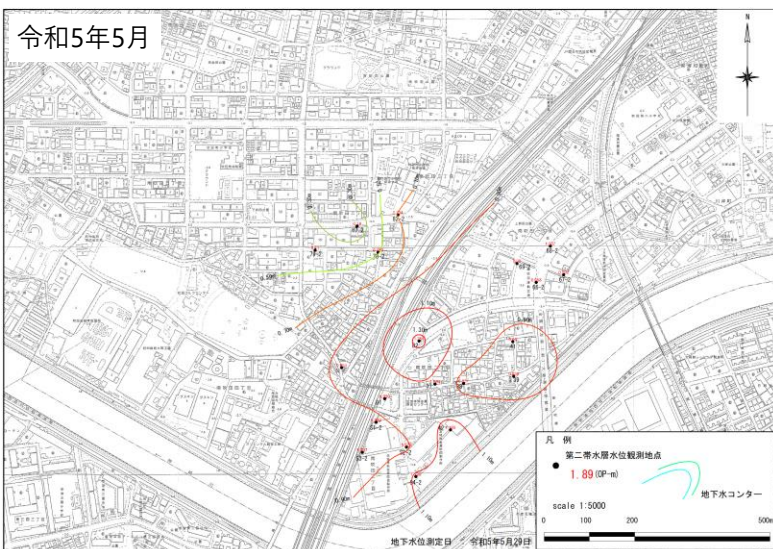
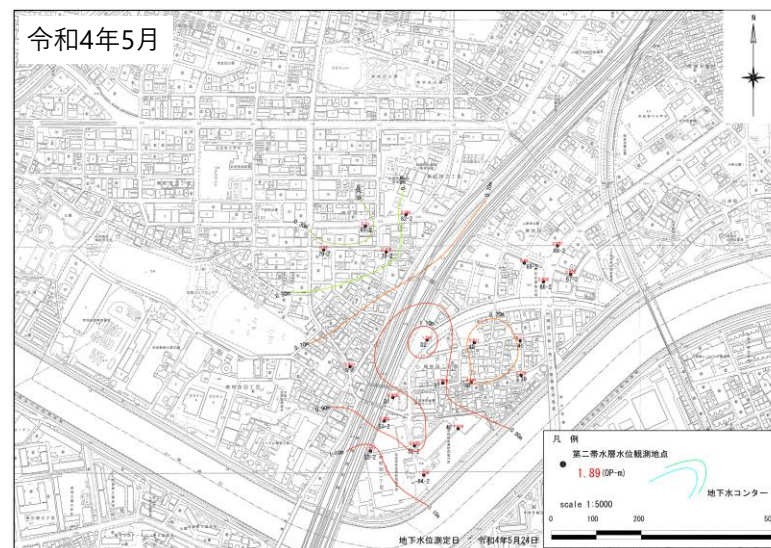
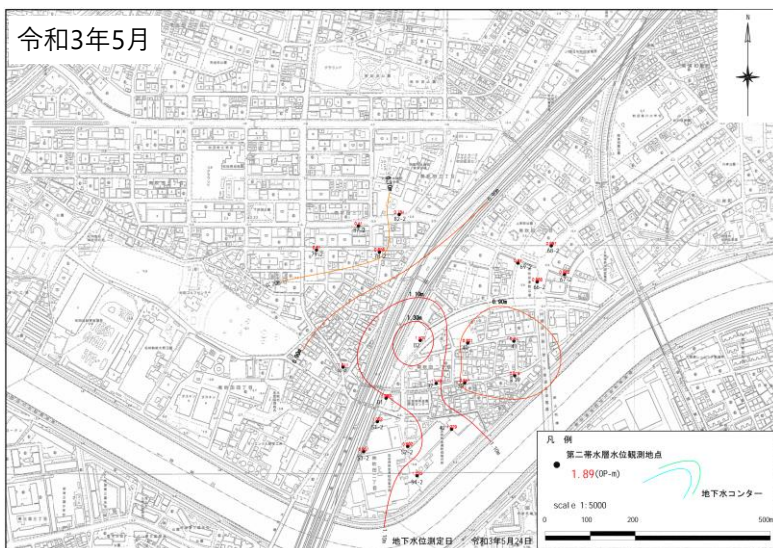
- 大局的には、北側から南下する流向と、南側から北上する流向
- 1、2号揚水井戸の周辺の地下水は、局所的に揚水井戸へと向かう
- 3号揚水井戸は停止しており、当該周辺の地下水は北側へと向かう
- 3号揚水井戸の北西側に位置するNo.69井戸の地下水位が低い

令和6年5月（1,2号で揚水、3号は停止）



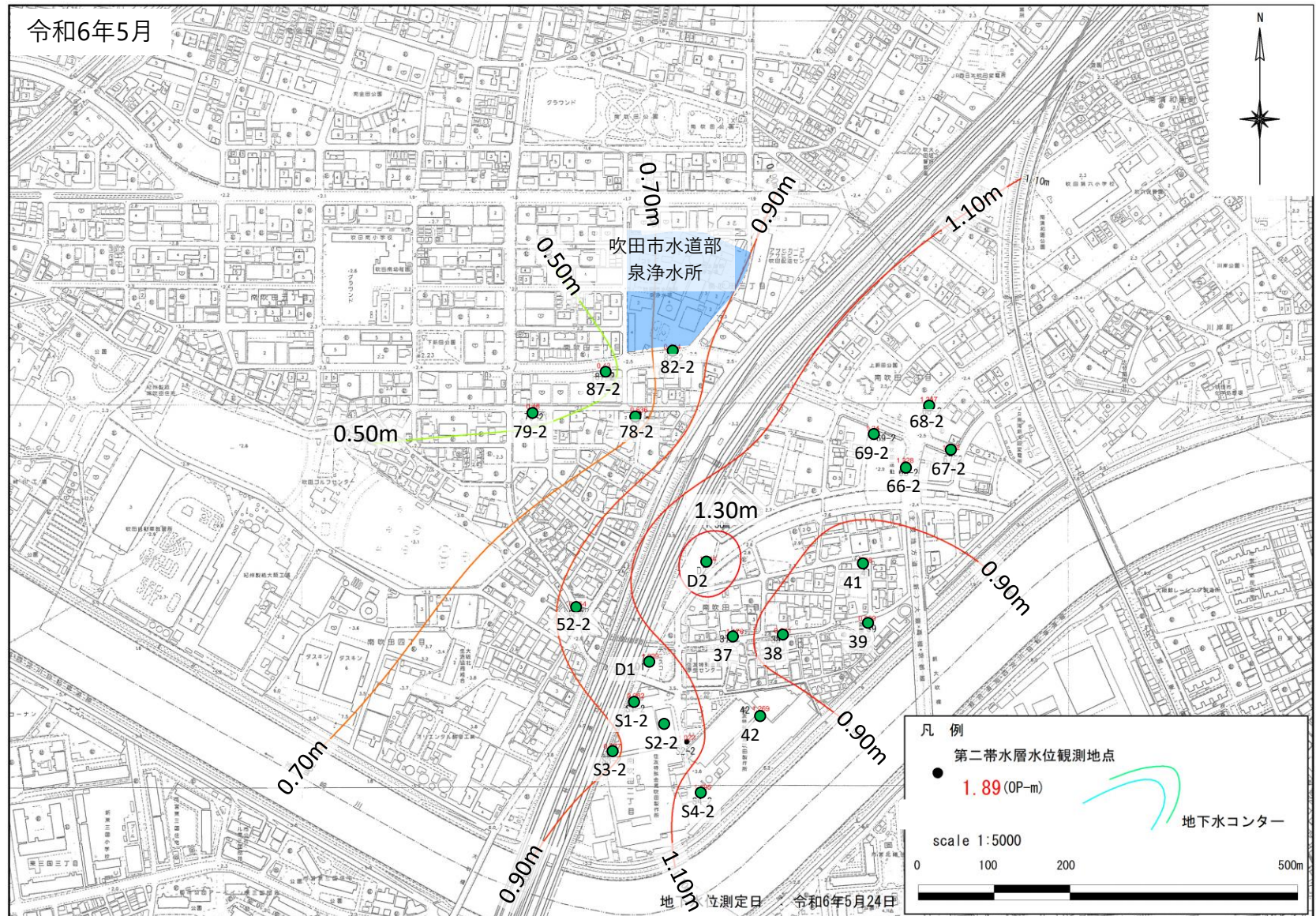
地下水位コンター図（第2帯水層）（1）

第2帯水層の地下水位分布は、昨年度の同時期とおおむね同様



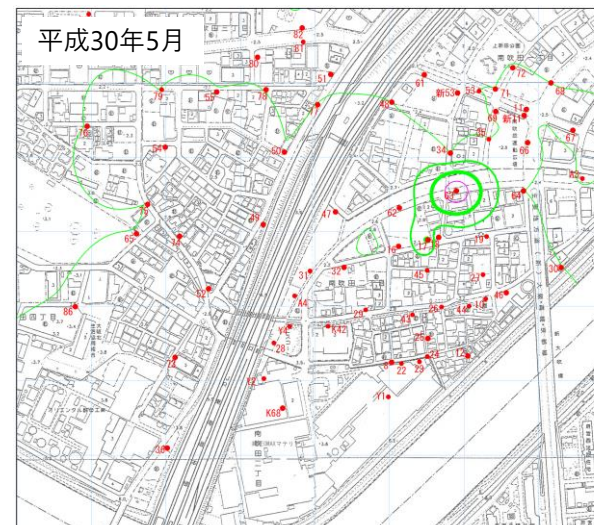
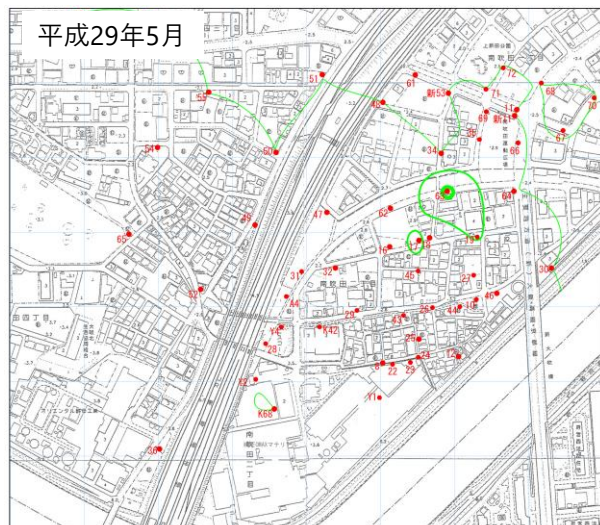
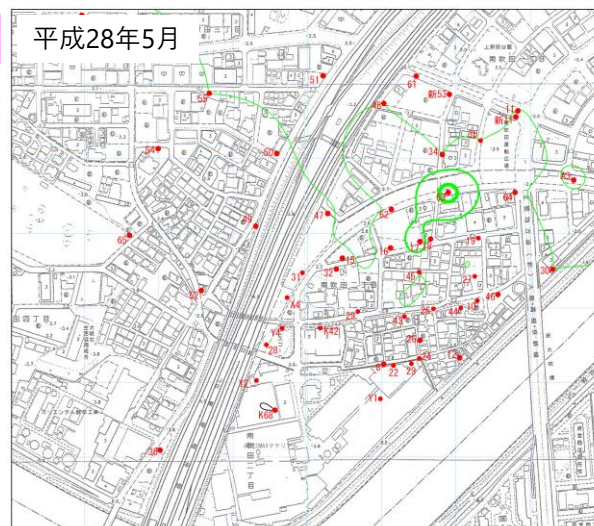
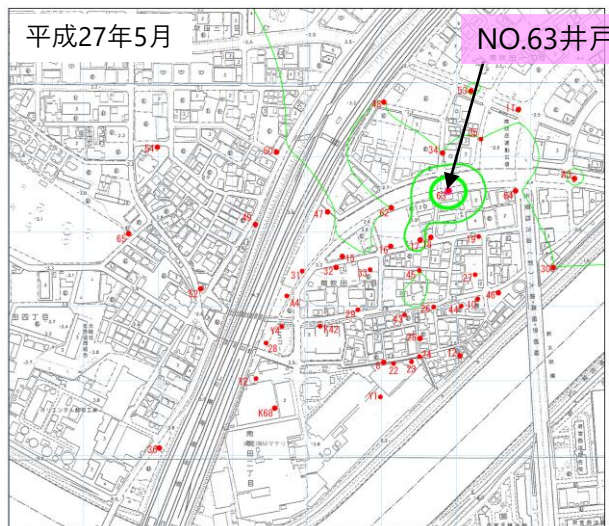
地下水位コンター図（第2帯水層）（2）

- 地下水位は相対的にD2井戸（JRおおさか東線敷地内）が高い
- 泉浄水所の南西側に位置するNo.87-2井戸周辺が低い

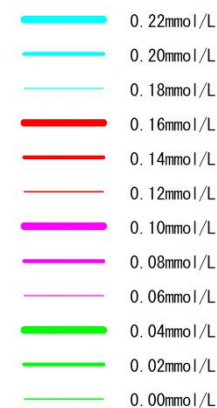


総モル濃度*による地下水汚染コンター図（第1帯水層）（1）

■ No.63（1号揚水井戸近傍）が高い傾向にあった



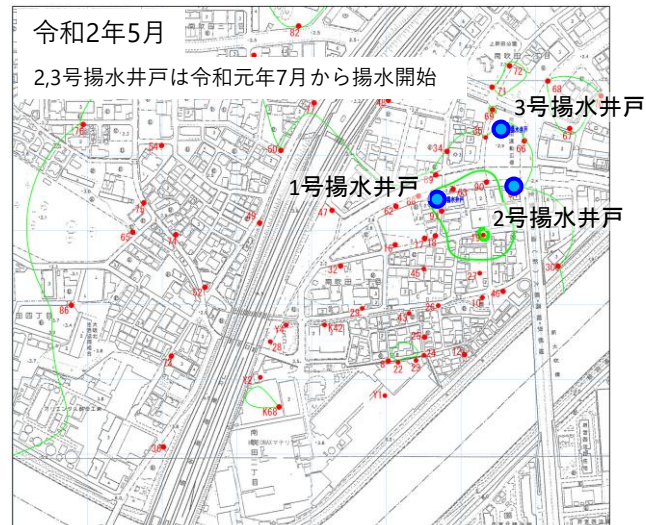
総モル濃度



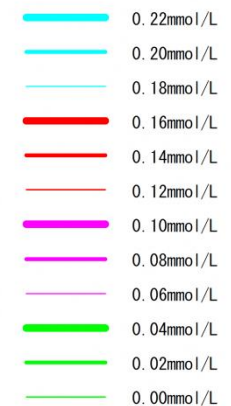
※テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1-ジクロロエチレン、クロロエチレンのモル濃度の総和

総モル濃度*による地下水汚染コンター図（第1帯水層）（2）

■ 揚水開始後、開始前と比べると総モル濃度は低下



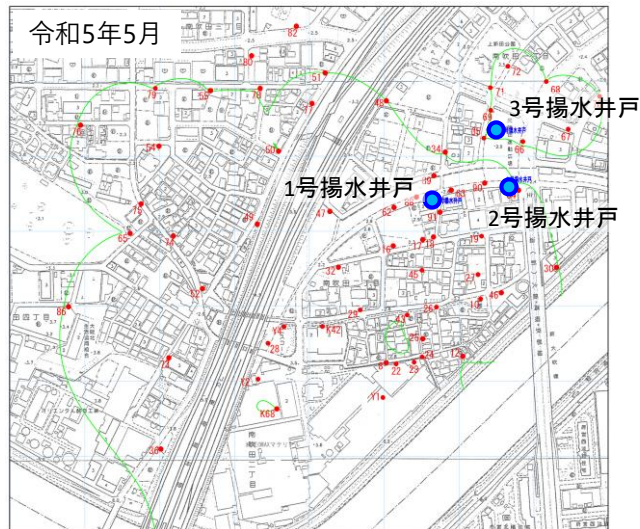
総モル濃度



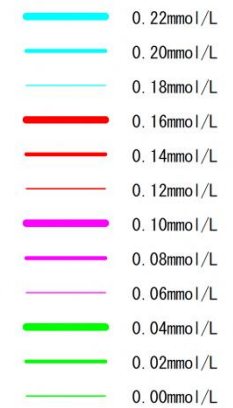
※テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1-ジクロロエチレン、クロロエチレンのモル濃度の総和

総モル濃度*による地下水汚染コンター図（第1帯水層）（3）

■ 揚水開始後、開始前と比べると総モル濃度は低下



総モル濃度

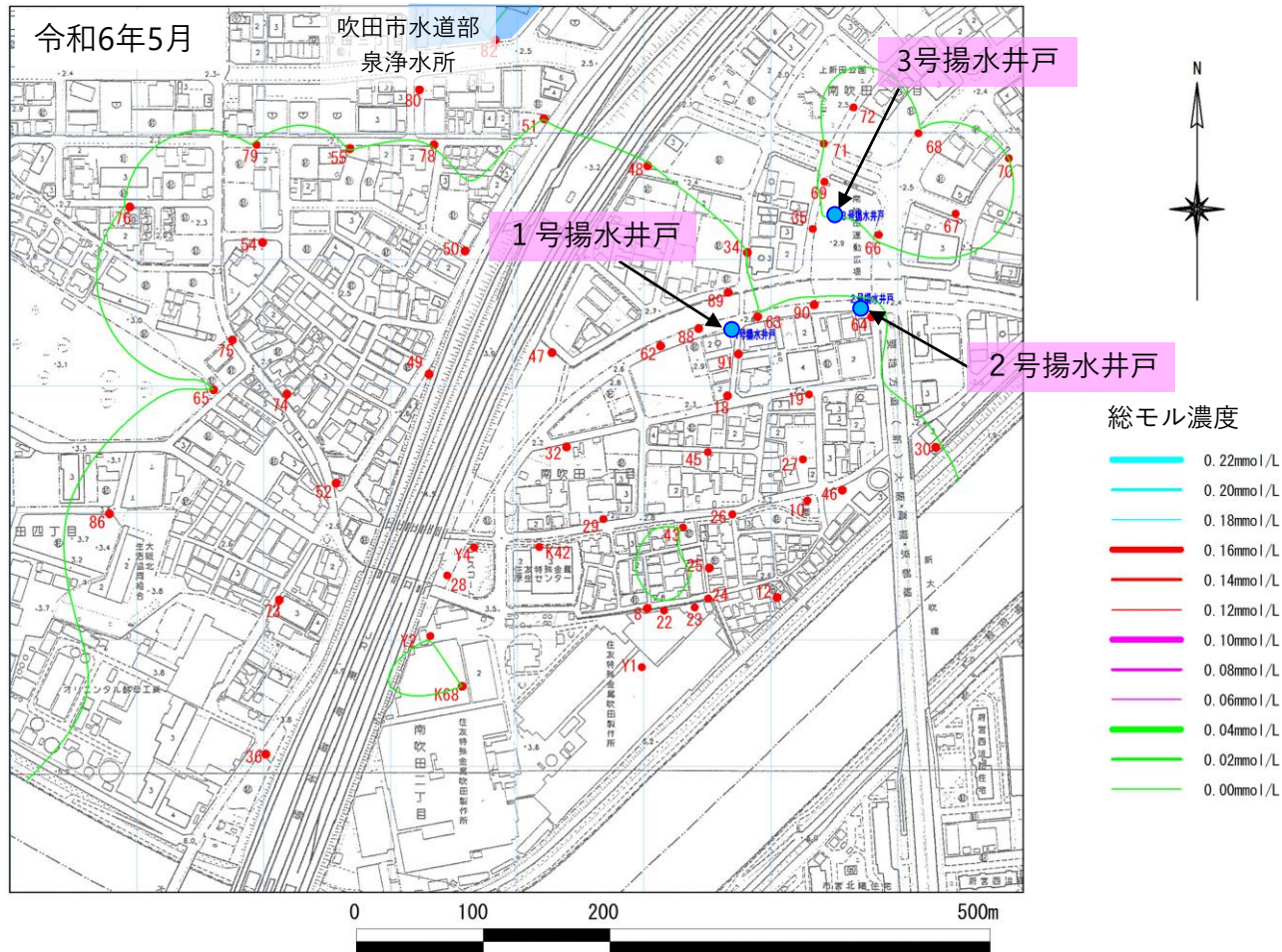


※テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1-ジクロロエチレン、クロロエチレンのモル濃度の総和

総モル濃度*による地下水汚染コンター図（第1帯水層）（4）

- 1号揚水井戸およびその南側を広がっていた高濃度のエリアが縮小
- 3号揚水井戸の北側に高濃度エリアが拡大していない

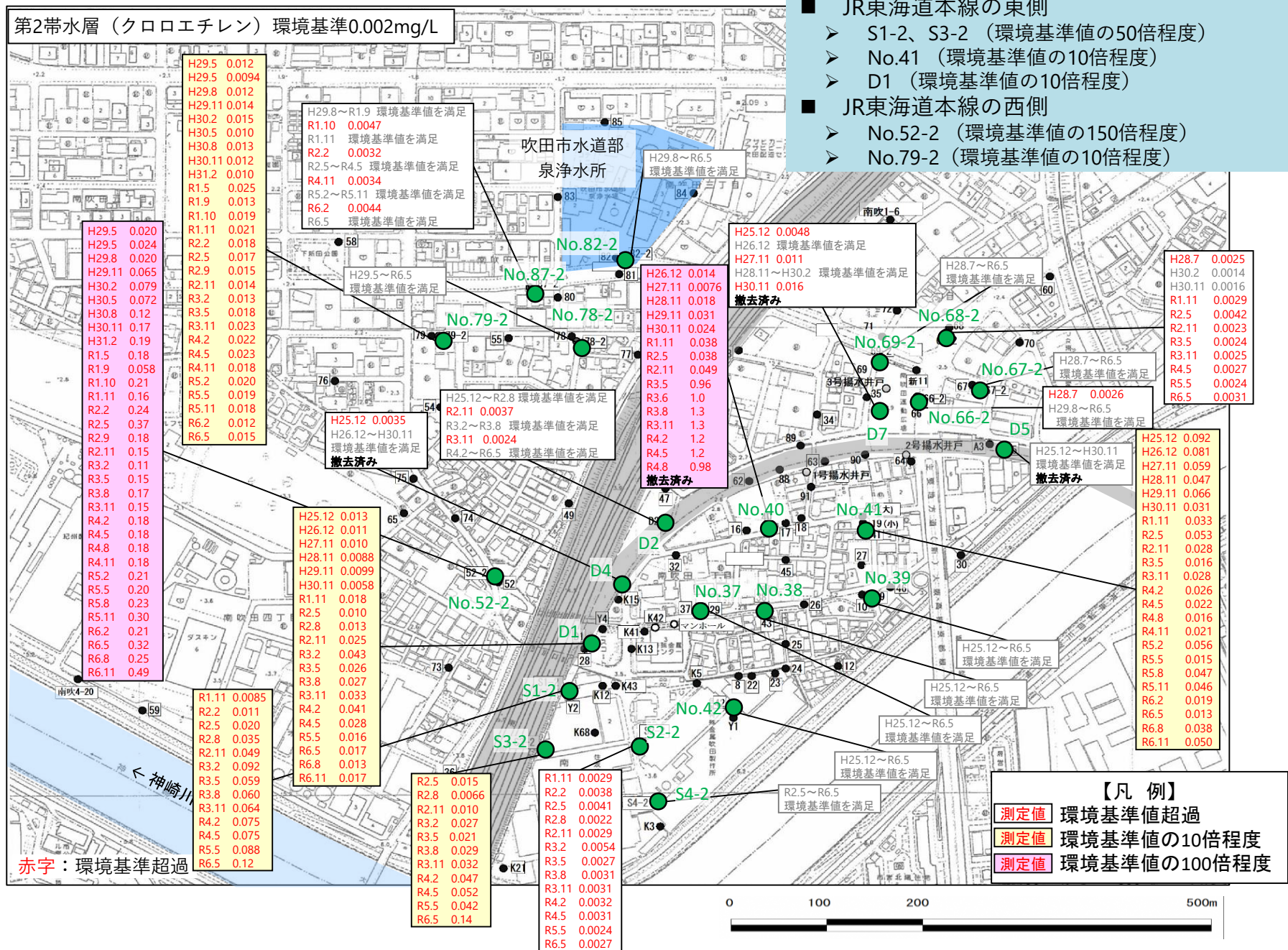
⇒汚染地下水の揚水対策で期待された「汚染濃度の低下」と「汚染拡散防止」の効果を確認できた



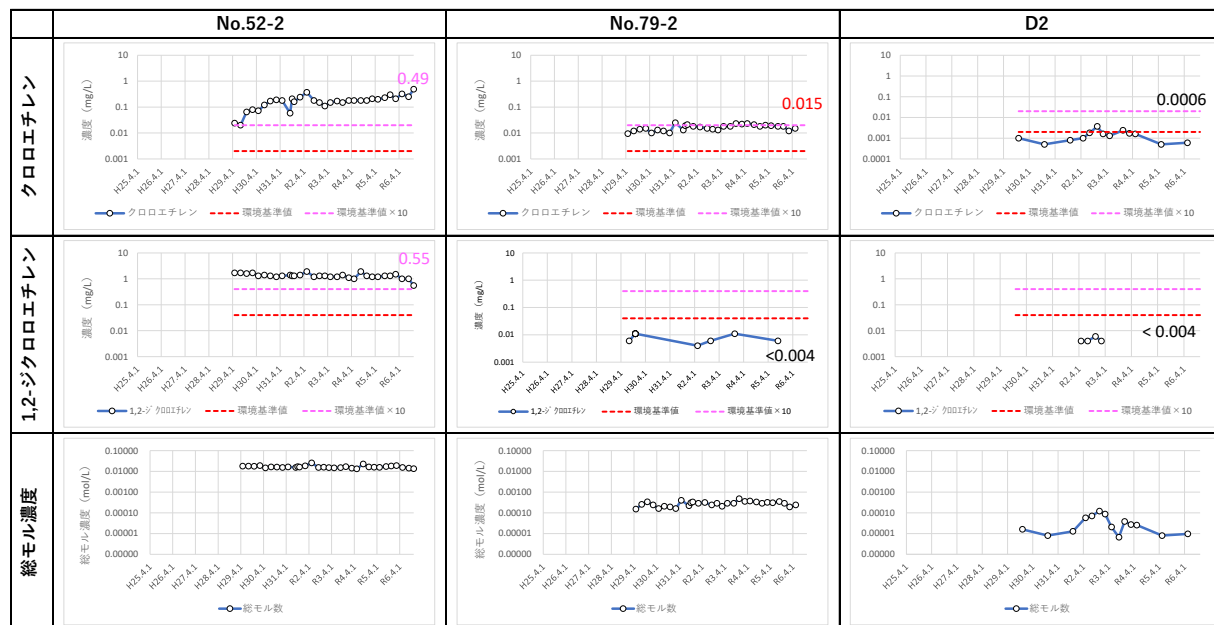
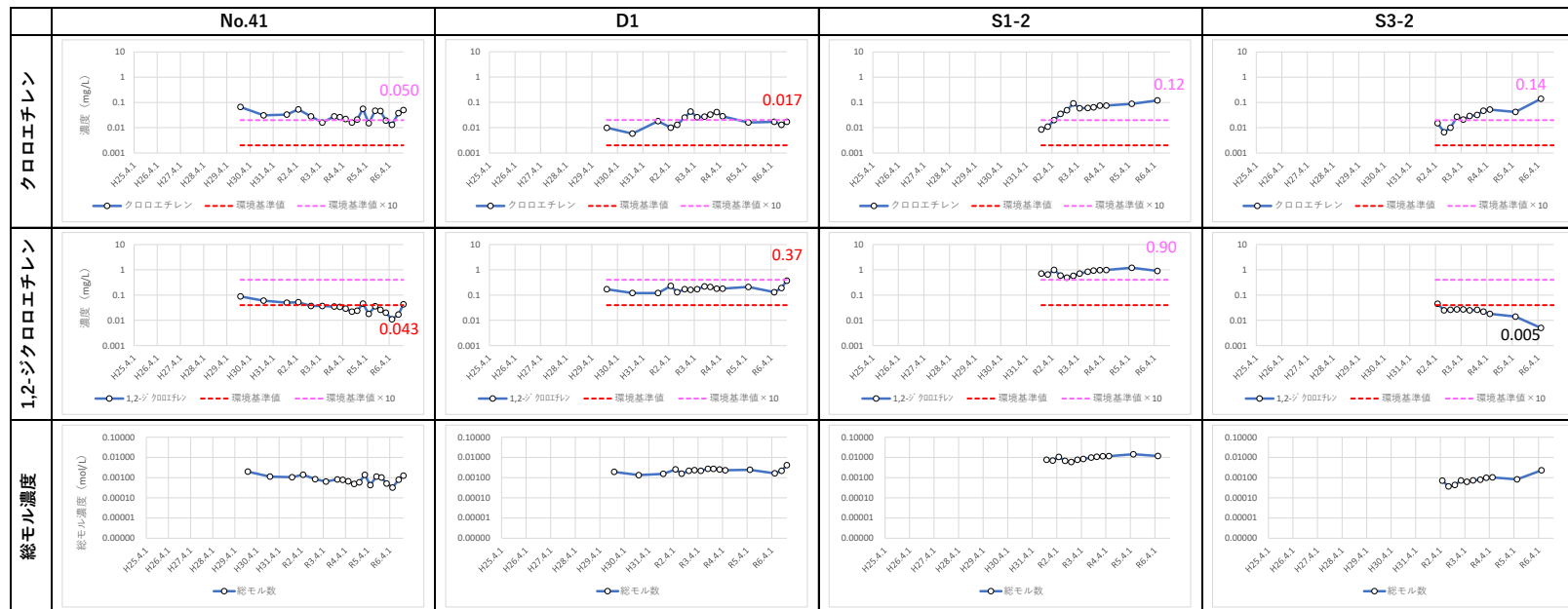
※テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1-ジクロロエチレン、クロロエチレンのモル濃度の総和

第2帯水層の地下水汚染状況図（クロロエチレン）

第2帯水層（クロロエチレン）環境基準0.002mg/L



第2帯水層の地下水汚染状況図（主要地点※）



■JR東海道本線東側

- S1-2、S3-2はクロロエチレン濃度がやや上昇
(1,2-ジクロロエチレンはやや減少)

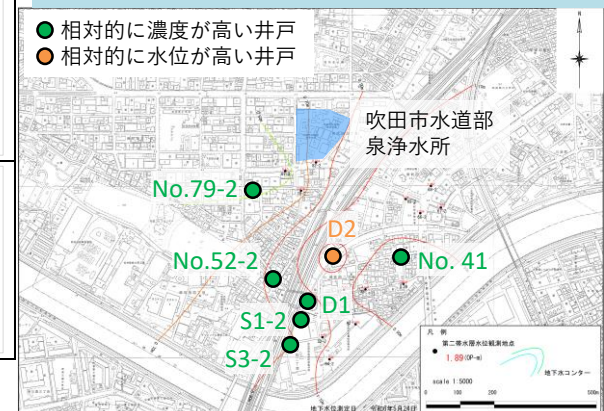
⇒S3-2の総モル濃度はやや上昇しており、1,2-ジクロロエチレンの分解に加えて、クロロエチレンの移流も考えられる。

■JR東海道本線西側

- No.52-2、No.79-2はおおむね横ばい

■その他

- No.40のような急激な濃度上昇は認められない

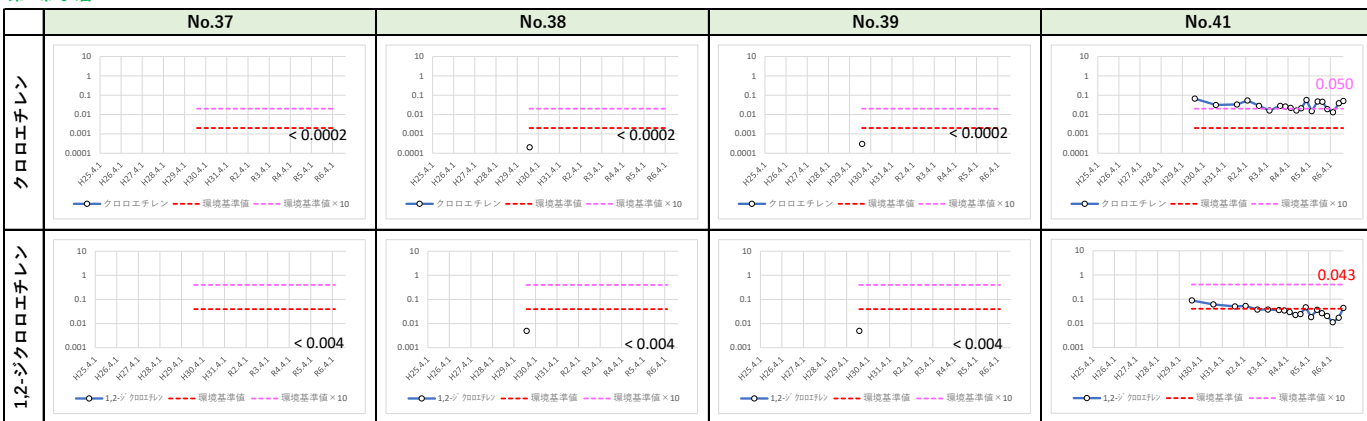


※ 第2帯水層の観測井戸のうち、下記の地点を記載

- ・濃度が相対的に高い井戸：No.41、D1、S1-2、S3-2、No.52-2、No.79-2
- ・地下水位が相対的に高い井戸：D2

No.40井戸周辺の汚染状況（第1および第2帯水層）

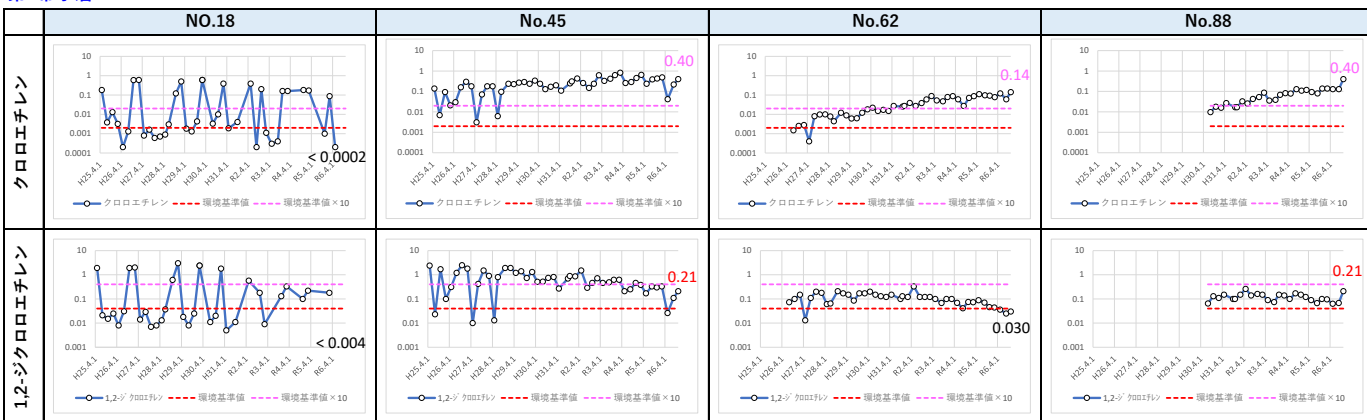
第2帯水層



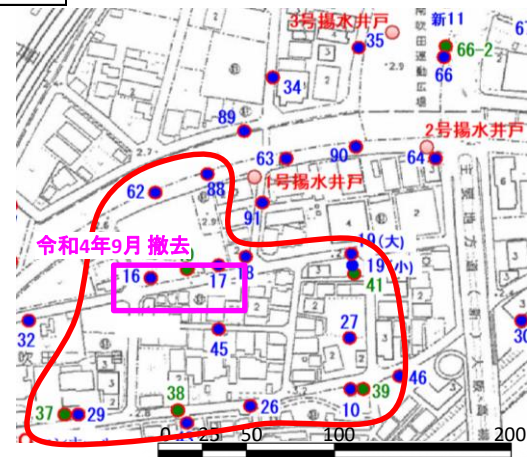
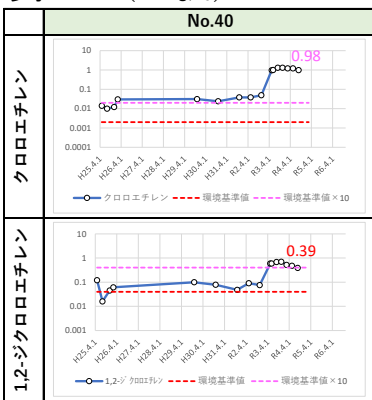
■ 汚染地下水が第1帯水層から第2帯水層へと落ち込んだ可能性も考えられるため、第1帯水層においても濃度変化を確認

■ No.40（撤去済み）のような急激な濃度上昇は、周辺観測井戸において認められない。

第1帯水層



参考：No.40（R4.8まで）



ま と め

帯水層	地下水位および流向	地下水汚染
第1帯水層	■ 大局的な地下水流動は、①北側から南下、②南側から北上 ■ JR東海道本線東側では、揚水による影響を受け、局所的に揚水井戸周辺（1、2号、Y1等）で地下水位が低い ■ 3号揚水井戸北西側のNo.69の地下水位が局所的に低い	【JR東海道本線東側】 ■ 1号揚水井戸およびその南側で濃度が高い （クロロエチレン：No.91 1.1mg/L（R6.5）、 1,2-ジクロロエチレン：No.26 0.36mg/L（R6.5）） 【JR東海道本線西側】 ■ No.52、54を中心に濃度が高い （クロロエチレン：No.54 0.011mg/L（R6.5）、 1,2-ジクロロエチレン：No.52 0.12mg/L（R6.5））
第2帯水層	■ 第1帯水層と比べて調査地点が少なく、地下水形態は不明確 ■ 中央部（JR敷地内）に位置するD2井戸の地下水位は、相対的に高い ■ 水道部の南西側（No.79-2や87-2等）、工場敷地境界付近（S3-2）の地下水位は、相対的に低い	【JR東海道本線東側】 ■ No.40井戸周辺では、No.40（撤去済み）のような急激な濃度上昇は認められない ■ S1-2、S3-2井戸ではクロロエチレンの濃度がやや上昇傾向にあるが、1,2-ジクロロエチレンは減少傾向 ⇒S3-2の総モル濃度はやや上昇しており、1,2-ジクロロエチレンの分解に加えて、クロロエチレンの移流も考えられる。 【JR東海道本線西側】 ■ No.52-2やNo.79-2で濃度が高い （クロロエチレン：No.52-2 0.32mg/L（R6.5）、 1,2-ジクロロエチレン：No.52-2 1.0mg/L（R6.5）） ■ 上記井戸はおおむね横ばい

令和7年度スケジュール（必要に応じて測定頻度の見直しを行う）

	帯水層	取組	R7年度											
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東側	第1帯水層	1～3号揚水井戸での揚水対策*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		揚水井戸、周辺観測井戸の連続水位測定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		揚水井戸における揚水量の把握	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		揚水井戸、観測井戸No.35,66,90の水質測定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		揚水井戸周辺、工場敷地境界周辺の水質測定		○			○			○			○	
	—	地盤測量			○						○			
全域	第1,2帯水層	水位測定		○			○			○			○	
	第1帯水層	水質測定		○										
	第2帯水層	水質測定		○										
専門家会議												 ・ 東側対策の効果確認 ・ 汚染状況の確認		

* 3号揚水井戸は、最適な運転状況を維持